

【注意に従わず飲酒運転をした者を追跡して通報し検挙につながった事例】

ある日の深夜の出来事でした。

私は、とあるコインパーキングで、料金精算をしようと料金精算機に向かったところ、一人の男性が料金の精算をしておりましたが、何やらお札の挿入に手間取っている様子でした。

そこで、私が近づいたところ、その男性は、明らかに顔が赤く、酒の臭いをプンプンとさせておりました。

この男性が料金の支払いをしようとしていたわけですので、当然ながら、この男性が飲酒運転をすることになるのは明らかでした。

私は、男性に対し、

あなた、お酒を飲んでいるでしょう。飲酒運転をしてはいけません。

と強い調子で言いますと、男性は何かぶつぶつ言っていました。そのうち

いつもの代車で帰る。

と言ってくれましたので、それなら大丈夫と思い、私が代わりにお札を機械に挿入してあげました。

私も自分の精算を終わり、車に乗り込んで前を見ますと、男性が自分の車に乗っていましたが、先程の言葉とは裏腹にそのまま走り出し、私が止める間もなく駐車場を出て行ってしまいました。

私は、

自分が精算を手伝ってしまったことで、あの車が誰かを死亡させたり、

怪我をさせてしまったらどうしよう。

という思いが第一に浮かび、今すぐ何とかしないとイケないと考え、110番通報しました。

ハンズフリー機能の通話で、警察官にナンバーや車種、進行方向などを伝えながら後を追い、何とか追いついて後ろに続いていましたところ、目の前で追突事故を起こして止まりました。

そこで、再び警察に通報しましたところ、しばらくして、パトカーが到着し、男性の呼気検査などを行った後、そのままパトカーで連れて行きました。後で、飲酒運転で逮捕されたと警察から聞かされました。

飲酒運転の通報は、今回が初めての経験でした。今、振り返りますと

もし、通報していなかったら、ひよっとしたら誰かが跳ねられたかも知れない。それを防ぐことができてよかった。

と本当に思います。

また飲酒運転を見かけたら、必ず通報します。